リビングふくやま　2017年（平成29年）3月4日号

街のホットニュース

各家庭で5つの取り組みを実践して、ふるさとの川をきれいにするプロジェクト

国土交通省、福山市、環境保護団体代表、マスコミなど、官民一体となって芦田川の水質浄化・啓発活動を行っている「芦田川環境マネジメントセンター」（通称AEMC、会長＝田中宏行さん）。同センターでは平成19年から、毎年11月を「河川浄化チャレンジ月間」とし、「芦田川きれい☆きれいプロジェクト」を実施しています。このプロジェクトの主な目的は、各家庭の生活排水を削減し、ふるさとの川をきれいにすること。

昨年11月1日～30日の1カ月間、芦田川の支流である瀬戸川・高屋川を中心に、芦田川流域全体に各家庭での5つの取り組み（表1）に実践を呼び掛けました。

通算10回目となる今回は、合計1786世帯（瀬戸川流域1220世帯、高屋川流域346世帯、芦田川本川流域220世帯）が協力。

各家庭の取り組みで川の水質に変化が！

同センターでは、取り組み前と取り組み中に、瀬戸川で水質調査を実施しました（写真）。調査はそれぞれ1回でしたが、生活排水などの汚れの量（BOD）や水中のリンの量（T－P）の削減が見られたそうです。

参加者アンケートでは、意識の変化や今後の取り組みへの決意など、積極的な意見が寄せられました（表2）。

「このような芦田川の水質浄化に向けた草の根運動が契機となって、芦田川流域全体へ広がっていくことを期待します。また、各家庭に水質浄化の取り組みが定着するとともに、芦田川の水質が改善していくことを願っています」と同センター。

ホームページでは、詳しい調査結果と参加者アンケートの結果などを紹介しています。検索は、「AEMC」で。

◆問い合わせ
☎090（2381）6619芦田川環境マネジメントセンター事務局（西町・エフエムふくやま内、担当者直通／川嶋さん・原さん）

ホームページはこの二次元コードから

▲調査員が川の中に入り、水質の変化を調べました

表1「河川浄化チャレンジ月間」5つの取り組み

①排水口にネットをかけて、調理くずや食べ残しを流さない。
②汚れのひどい鍋、食器類は、ふき取ってから洗う。
③食用油は直接流さず、紙にしみこませたり、固めたりしてごみとして出す。
④食器類を洗う時に、洗剤の使用量を減らす。
⑤洗濯の時に、洗剤の適量使用を心がける。

表2　参加者からの意見（一部抜粋）

◆小さな心がけがどんどん広がって、社会全体へとつながっていったらいいですね。まずは、小さな一歩から続けていきたいです。
◆環境について話をする機会ができて良かったと思います。
◆日頃からできる事を続けていこうと思いました。アクションシートを書くことで意識してできたので、このまま続けていきたいです。
◆数年前の「チャレンジ月間」をきっかけに続けています。忙しくてできなくなる時もありますが、11月の取り組みや、アンケート結果を見て再度頑張ろうと思えます。続けていき、広まる事を願っています。
◆一人一人の環境についての意識が高まる良いきっかけになれば良いなと思います。
◆このようなアンケートがあることで、こういった活動をされていることが改めて分かりました。家だけでなく職場など、まずはしっかり自分たちでやっていこうと思いました。